

# 令和5年度社会福祉法人さゆり会事業報告書

## 1. 法人の運営

(1) 所在地 長崎県五島市下崎山町699番地

### (2) 直近の法人職員数等について

- 最も直近（令和6年4月1日現在）で集計した法人全体の職員数は、296名となっており、前年度から3名減少しています。これについては、わずかながら児童及び高齢者分野での職員減少が要因となっています。

なお、職員の内訳は次のとおりです。 (単位：人)

事業分野別	児童	高齢者	障害者	合計	
R6.4実績	22	200	74	296	
R5.4実績	24	202	73	299	
R4.4実績	35	199	66	300	
R6.4全体比	7%	68%	25%	100%	
雇用形態別	正規職員	準職員	パート		
R6.4実績	148	70	78	※日々雇用者は集計に含まれていません。	
R5.4実績	154	62	83		
R4.4実績	146	63	91		
R6.4全体比	50%	24%	26%		
年齢別	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
R6.4実績	30	58	72	67	69
R5.4実績	27	68	74	61	69
R4.4実績	30	68	76	56	70
R6.4全体比	10%	20%	24%	23%	23%

※全体比の数値は全職員数に対する割合（少数1位四捨五入）です。また、ひまわりルームの職員数（R6.4は10名）は、障害者分野の数値に含まれています。

- 過去5年間の退職者数は、次のとおりです。

<事業分野別> (単位：人)

	児童	高齢者	障害者	合計
令和5年度	2 (4%)	37 (67%)	16 (29%)	55 (100%)
令和4年度	12 (21%)	34 (61%)	10 (18%)	56 (100%)
令和3年度	5 (9%)	44 (83%)	4 (8%)	53 (100%)
令和2年度	6 (16%)	23 (61%)	9 (24%)	38 (100%)
令和元年度	9 (21%)	24 (57%)	9 (21%)	42 (100%)

※（ ）内の数値は各年度退職者数に対する割合（少数1位四捨五入）です。

※令和5年度退職者数は、全職員299人（R5.4）の約18%（昨年度19%）になります。

	<雇用形態別>			<年齢別>				
	正規職員	準職員	パート	20代以下	30代	40代	50代	60代以上
令和5年度	21 (38%)	8 (15%)	26 (47%)	4 (7%)	7 (13%)	16 (29%)	8 (15%)	20 (36%)
令和4年度	12 (21%)	14 (25%)	30 (54%)	8 (14%)	9 (16%)	7 (13%)	17 (30%)	15 (27%)
令和3年度	21 (40%)	13 (25%)	19 (36%)	5 (9%)	11 (21%)	9 (17%)	13 (25%)	15 (28%)
令和2年度	5 (13%)	13 (34%)	20 (53%)	5 (13%)	8 (21%)	9 (24%)	5 (13%)	11 (29%)
令和元年度	12 (29%)	12 (29%)	18 (43%)	6 (14%)	7 (17%)	4 (10%)	15 (36%)	10 (24%)

※（ ）内の数値は各年度退職者数に対する割合（少数1位四捨五入）です。

※令和3年度新規雇用者（56名）の内、令和6年4月1日現在の在職者（31名）の定着率は、約55%（昨年度52%、一昨年度63%）となっており、3年間で約45%の職員が退職している状況です。

以上から分かるとおり、当法人の職員構成は、ほぼ各分野の予算規模に呼応するように、児童分野で約7%、高齢者分野で約68%、障害者分野で25%となって、昨年度と同じような結果となっています。また、昨年度は初めて正規職員数が非正規職員数を上回る結果となりましたが、雇用形態別の比率は、今回も同じような傾向となっています。ただ、わずかですが準職員が増加して、パート職員が減少する傾向が見られます。

年齢別構成では、これまで同様、20代以下の職員数が他の年代の半分にも満たない状態が続いていますので、次代を担う職員不足は解消すべき喫緊の課題となっています。新年度採用時における新卒者への働きかけを一層継続強化していく必要があると思います。

直近5年間の退職者数を見ると、令和5年度の退職者数が55名に上っており、これまで同様に深刻な状況は変わっていません。当面の間、一般の中小企業の平均離職率の12～13%程度を目標としながら、昨年度の離職率を全く減少させることができなかったことは、大いに反省しなければなりません。特に令和5年度は障害者分野での離職率が高くなったこと、正規職員の離職率が高かったことが特徴となっていますので、新年度においては、こうした点を念頭に置いて離職率の減少に一層努めていきたいと思っています。

### (3) 主な事業実績概要

#### ① 全般的な財務状況について

法人全体の財務諸表の概要及び財務指標は下表のとおりとなりました。

資金収支計算書により当初予算と比較しますと、事業活動収入は2.5%増加（昨年度0.8%増加）して、事業活動支出はほぼ同額に留まったことから、事業活動資金収支差額は、当初予算見込より30.3%の増加（昨年度7.0%の増加）と大幅な増加になりました。松寿園の改修工事等に伴う施設整備等による収支や有価証券への投資・積立金への支出等によるその他の活動による収支は当初見込みよりマイナス計上が膨らみましたが、最終的な当期資金収支差額合計は、54,357千円となって、当初見込みより59.4%の増加となりました。今年度の資金収支差額合計は近年では比較的大きな余剰資金となりましたが、松寿園において初めて積立金23,000千円を計上しましたので、実際の余剰資金は、

77, 357千円ということになります。

事業活動計算書により昨年度決算額と比較しますと、サービス活動収益は2.4%の増加（昨年度4.3%の増加、一昨年度1.6%の増加）に留まりましたが、サービス活動費用がほぼ昨年と同額（昨年度5.5%増加、一昨年度2.5%の増加）になったことから、サービス活動増減差額は63.4%の増加（昨年度21.6%の減少、一昨年度13.6%の減少）となりました。そのため、経常増減差額は昨年度より56.9%増加（昨年度19.5%減少、一昨年度49.7%減少）して74,387千円となりました。その結果、当期活動増減差額は昨年度より65.0%増加（20.7%減少）して76,961千円となりました。最終的に次期繰越活動増減差額は、10.6%増加（昨年度4.1%増加、一昨年度5.3%増加）して1,296,067千円となりました。

以上の結果を見ますと、昨年度、一昨年と比較して経常増減差額や当期活動増減差額は大きく増加する結果となり、次期繰越活動増減差額も前年度より10%を超える増加率を達成しました。詳細なところでは気になる点もありますが、事業活動計算書から見ると近年の厳しい決算状況から少し回復できた結果となりました。

貸借対照表において昨年度決算額と比較しますと、資産総額としては、1.7%の増額（昨年度0.8%減額、一昨年1.2%減額）となり、3,191,233千円となりました。

一方、負債総額も、0.9%増額（昨年度3.3%、一昨年度5.1%減額）となって1,039,412千円となったことから、結果的に、純資産額は、昨年度より2.1%増加（44,783千円）して、2,151,821千円となりました。

上記の結果から、財務指標は下表のとおりとなりました。安全性の指標については、純資産比率が昨年度より0.2%上昇して67.4%となり、前年に引き続き目標値を超えました。固定長期適合率も1.6%改善して73.0%（昨年度74.6%）となり、僅かですが目標値に近づきました。借入金比率は昨年度より1.9%低下して57.3%となり、前年に引き続き目標値の60%以下を達成しました。

収益性に係る総資産回転率は昨年度と同じ値となり、当面の目標値にも達していませんが、他の社会福祉法人の平均的な数値は上回っています。これまで施設整備等において補助金を充当してきた社会福祉法人にとっては、この指標を上昇させることは難しい課題だと思いますが、そうした補助金自体が縮小している現状では、この指標に無関心であってはいけないと考えています。通常の民間法人のように、少ない投資でより多くの収益を上げていく経営努力を強く意識する必要があると思います。

そして、最終的な利益に直結するサービス活動収益対サービス活動増減差額比率は、昨年度より2.0%上昇（昨年度1.1%低下、一昨年度0.8%低下）して5.3%なり、目標値も超えることができました。これには下表からも分かるとおり、昨年度より人件費率や経費率が低下したことが大きく影響していると考えられます。

人件費率は、昨年度より目標値には近づいたものの、昨年度に引き続き目標を達成できなかったこと、人件費総額自体は増え続けていることに強い危機感を感じています。

人件費の上昇については、職員の処遇改善加算に伴う支出や正規職員の雇用者数が徐々に増加していること、さらには外国籍職員の人件費や雇用に係るその他の経費等がかなり影響していると考えられますので、今後も引き続き適切な人材配置等も含めて検討が必要だと思えます。また、経費率について、目標値には達しなかったものの昨年度より数値が低下したことは意外でした。事業費の増加以上に事務費が減少したことによるものですが、物価高騰は未だ継続するものと考えられますので、経費の動向については今後も注視していく必要があると思えます。

資金収支計算書

(単位：千円)

	勘定科目	当初予算(A)	決算(B)	B/A×100
事業活動による収支	事業活動収入計(1)	1,514,506	1,552,036	102.5
	事業活動支出計(2)	1,392,145	1,392,616	100.0
	事業活動資金収支差額(3)	122,361	159,420	130.3
施設整備等による収支	施設整備等収入計(4)	29,000	109,610	378.0
	施設整備等支出計(5)	107,190	194,941	181.9
	施設整備等資金収支差額(6)	△78,190	△85,331	109.1
その他の活動による収支	その他の活動収入計(7)	1,212	73,484	6,063.0
	その他の活動支出計(8)	2,420	93,215	3,851.9
	その他の活動資金収支差額(9)	△1,208	△19,732	1,633.4
	予備費(10)	8,862	0	-
	当期資金収支差額合計(11)	34,101	54,357	159.4
	前期末支払資金残高(12)	812,521	874,293	107.6
	当期末支払資金残高(13)	846,622	928,649	109.7

※ (3) = (1) - (2)、(6) = (4) - (5)、(9) = (7) - (8)

(11) = (3) + (6) + (9) - (10)、(13) = (11) + (12)

※ 記載された金額は、千円未満を4捨5入しているため、数値が一致しない場合がある。

事業活動計算書

(単位：千円)

	勘定科目	当年度決算(A)	前年度決算(B)	A/B×100
サービス活動増減の部	サービス活動収益計(1)	1,546,582	1,510,224	102.4
	サービス活動費用計(2)	1,465,371	1,460,533	100.3
	サービス活動増減差額(3)	81,210	49,691	163.4
サービス活動外増減の部	サービス活動外収益計(4)	5,512	10,915	50.5
	サービス活動外費用計(5)	12,335	13,197	93.5
	サービス活動外増減差額(6)	△6,824	△2,281	299.2
	経常増減差額(7)	74,387	47,410	156.9
特別増減の部	特別収益計(8)	14,610	9,575	152.6
	特別費用計(9)	12,036	10,353	116.3
	特別増減差額(10)	△2,574	△778	330.8
	当期活動増減差額(11)	76,961	46,632	165.0
繰越活動増減差額の部	前期繰越活動増減差額(12)	1,172,105	1,126,323	104.1
	当期末繰越活動増減差額(13)	1,249,066	1,172,955	106.5
	基本金取崩額(14)	0	0	
	その他の積立金取崩額(15)	70,001	0	
	その他の積立金積立額(16)	23,000	850	2,705.9
	次期繰越活動増減差額(17)	1,296,067	1,172,105	110.6

※ (3) = (1) - (2)、(6) = (4) - (5)、(7) = (3) + (6)、(10) = (8) - (9)

(11) = (7) + (10)、(13) = (11) + (12)、(17) = (13) + (14) + (15) - (16)

## 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部			
科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,033,502	957,055	76,447
固定資産	2,157,732	2,180,100	△ 22,369
資産の部合計	3,191,233	3,137,155	54,078
負債の部			
流動負債	236,112	213,171	22,941
固定負債	803,300	816,946	△ 13,646
負債の部合計	1,039,412	1,030,117	9,295
純資産の部			
基本金	152,618	152,618	0
国庫補助金等特別積立金	582,332	614,510	△ 32,178
その他の積立金	120,804	167,805	△ 47,001
次期繰越活動増減差額	1,296,067	1,172,105	123,962
(うち当期活動増減差額)	76,961	46,632	30,329
純資産の部合計	2,151,821	2,107,038	44,783
負債及び純資産の部合計	3,191,233	3,137,155	54,078

## 財務指標

財務指標	算式	指標値	目標値	前年度値	備考
純資産比率 (自己資本比率)	$(\text{純資産} / \text{総資産}) \times 100$	67.4 (73.1)	60.0 以上	67.2	安全性 50%以上
固定長期適合率	$(\text{固定資産} / (\text{純資産} + \text{固定負債})) \times 100$	73.0 (85.8)	70.0 以下	74.6	安全性 100%以下
借入金比率	$((\text{設備資金借入金} + \text{長期運営資金借入金}) / \text{サービス活動収益}) \times 100$	57.3 (47.4)	60.0 以下	59.2	安全性 100%以下
総資産回転率	$\text{サービス活動収益} / \text{総資産}$	0.48 (0.43)	0.50 以上	0.48	収益性
人件費率	$(\text{人件費} / (\text{サービス活動収益} - \text{就労支援事業収益})) \times 100$	65.4 (67.3)	65.0 以下	66.3	
サービス活動収益対サービス活動増減差額比率	$(\text{サービス活動増減差額} / \text{サービス活動収益}) \times 100$	5.3 (2.5)	5.0 以上	3.3	収益性
経費率	$((\text{事業費} + \text{事務費}) / \text{サービス活動収益}) \times 100$	21.4 (24.1)	20.0 以下	22.4	

※指標値欄の下欄に示す( )内の数値は、(独)福祉医療機構が全国の社会福祉法人(6,930(H29)・8,350(H30)法人)の平成29・30年度決算の数値に基づいて算出した平均値を記載した。人件費率以下が令和3年度の数値になります。

※備考欄に示す数値は一般的に望ましいとされる数値を記載した。

## ② 長期借入金について

本年度は別表1のとおり長期借入金の償還を行いました。

また、令和5年度における新規の長期借入金は、次のとおりとなっています。

借入先	借入時期	借入目的	金額	借入期間	借入利率%
(株) 十八親和銀行	R 5. 4. 2 6	松寿園防水改修工事	29,000,000	1 5 年	1.200
(株) 十八親和銀行	R 5. 1 2. 6	松寿園空調設備更新工事及びLED機器設置工事	51,000,000	1 5 年	1.200
合計			80,000,000		

### ③ 短期借入金について

令和5年度末に残高が計上されている短期借入金は、次のとおりです。

拠点区分	令和4年度末	返済額	新規借入額	令和5年度末
高齢者住宅ひだまりの舎(利率1.100%)	8,000,000	8,000,000	8,000,000	8,000,000
職員住宅事業(利率1.200%)	3,000,000	3,000,000	1,500,000	1,500,000
合計	11,000,000	11,000,000	9,500,000	9,500,000

### ④ 事業総括について

#### ○ 児童福祉事業について

ア) こもれびの舎こども園については、崎山保育園の閉園に伴い園児10人が転園してきたことから、当初の入所児童は定員55名に対し55名(昨年度43名)からのスタートとなっていましたが、さらに6人の途中入所児童を受け入れたため年度末には児童数が61名となりました。年間を通しての平均在籍児童数も58.6名(定員の107%)となり、定員を超える実績となりました。昨年度の年間平均児童在籍率は83%でしたので大幅な児童数増加ということになります。中でも1号認定の児童が、年平均1.8人から11.6人に増加したことが特徴的な1年となりました。

しかしながら、五島市におけるこどもの出生数は未だ減少傾向にありますので、今後も同様の児童数が維持できるとは考えにくいところですが、減少率をできるだけ小さくできるように、地域の皆様から選択していただける園作りを継続していきたいと思えます。

なお、児童クラブについては、市内における児童クラブ事業所の減少と相まって、利用希望者が殺到する状況でしたが、高学年希望者を調整することで47名の児童を年間を通して受け入れました。児童クラブについては、今後も定員を超えての希望が寄せられると思えますが、職員のにも施設設備的にも現状の受け入れが限界ではないかと考えています。

財務内容としては、年間を通して定員を超えての運営ができたことで、当期資金収支差額合計は、近年にない15,000千円を超える黒字計上となりました。

しかしながら、過去3年にわたって資金収支における赤字計上が続いてきたことや人件費率が昨年度より10%程度低下したものの未だ70%近いこと、事業費の増加が継続していること、今後利用児童数の減少が見込まれること等を勘案すると決して楽観できる状況にはないものと考えています。引き続き人件費や各種経費の削減に努める必要があると考えています。

ウ) ひまわりルームについては、新型コロナウイルスの影響から抜け出せない状況が続いてきましたが、昨年度実績よりは回復の兆候が見える結果となりました。しかし、令和3年度以前の年間を通した平均利用者数（児童発達及び放デイ）と比較すると未だに利用者数は少ない状況が下表より分かります。運営的には少なくとも令和3年度実績を超える状況まで戻さないと大変厳しいと考えています。

財務内容としても、増築工事のための支出増があったことも影響して、資金収支はこれまでにない約700万円の赤字を計上しました。こうした赤字運営の対処の一環として児童発達支援センターへの事業種別変更を図るために増築工事を実施しているところですが、それが実現しても果たして黒字化が達成できるか微妙なところだと考えています。いずれにしても人件費率が100%という現状を速やかに打開していく必要がありますので、相当な緊張感を持って運営努力を続けなければならないと思います。

事業種別	年度別年間平均利用者数（人）				
	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R1年度
児童発達支援	5.7	4.7	7.0	7.0	6.8
放課後等デイサービス	7.5	7.1	8.2	7.7	7.5
合計	13.2	11.8	15.2	14.7	14.3
保育所等訪問支援	70	63	57	48	41

○ 高齢者福祉事業について

ア) 令和4、5年度の高齢者福祉分野における拠点別の当期資金収支差額合計と人件費率を見てみると下表のとおりとなっています。

金額単位（円）

拠点名	令和5年度		令和4年度	
	当期資金収支差額合計	人件費率(%)	当期資金収支差額合計	人件費率(%)
只狩荘	-79,809	66.8	-12,491,865	65.5
GH大浜	-698	73.8	114,438	71.7
みはらし荘	11,163,402	71.4	5,578,209	73.1
松寿園	29,817,782	56.1	-16,150,181	65.5
ひだまりの舎	4,210,793	65.4	-50,147	66.2
女神乃里	-415,990	64.3	-1,483,131	67.6
合計	44,695,480		-24,482,677	

※GH大浜拠点の数値は、有料老人ホームも含めてのものとなっています。

※ひだまりの舎拠点の数値は、サービス付き高齢者住宅も含めてのものとなっています。

※GH大浜拠点及びひだまりの舎拠点における令和4年度の人件費率は別拠点を含む数値に修正しています。

※人件費率の計算は、資金収支計算書の数値を用いて計算しています。

高齢者福祉分野における事業実績は、新型コロナウイルスの影響が限定的で単発的なものにとどまったこともあって、上表から分かるとおり、昨年度と比較すると財務内容が大きく改善する結果となりました。

法人全体の事業実績を左右する高齢者事業が、昨年度の大きな赤字計上から回復をしたことは、この1年間の各事業所、各職員の努力の成果であり評価に値するものだと考えています。

しかし、松寿園拠点における令和5年度当期資金収支差額の大きなプラス計上は、令和4年度の大きなマイナス計上（借入金での支払い分を前払いしたことによる）の反動として計上されたものであり、通常であればそれほど大きなプラス計上とはならないところです。

また、グループホーム大浜においては、近年徐々に人件費率が上昇してきていましたが、令和5年度においては、遂にわずかながら当期資金収支差額がマイナスとなりました。そして、法人内で最大の予算規模を持つ只狩荘においても2年連続して当期資金収支差額がマイナスとなりました。こうした点は今後の施設の修繕等の経費増も見込まれる中であっては一つの懸念材料になると思います。

それでも、これまで他の事業所からの資金提供を受けて運営をしてきたショートステイ女神の里拠点において、令和5年度は資金提供を受けることなく運営して、当期資金収支差額をわずかなマイナスに留めたことは大いに評価できることです。今後は自前での資金収支をプラスに転換できるよう継続した努力を期待しています。

イ) 只狩荘拠点については、昨年度新型コロナウイルスの影響を大きく受けたところですが、令和5年度においては、感染症の5類に移行した後、入居者2名、職員1名が感染しましたが、予防対策を徹底した結果、感染の拡大には至りませんでしたので、その影響はほとんどなかったと考えています。

そうしたことから施設部門の年間居室稼働率（50床）は実利用で96.5%（昨年度94.3%、一昨年度96.0%）、年間短期入所専用居室稼働率（10床）は90.4%（昨年度91.9%、一昨年度91.3%）となり、入所施設全体としては昨年度より高い稼働率の95.5%（昨年度93.9%）となりました。

そして、デイサービス事業では、年間一日当たり平均利用者数が定員18名に対して17.1人（昨年度16.9人、一昨年度18.5人）となり、昨年度よりわずかながら増加し、年間稼働日数も増加したことから、年間通所延べ人数も4,394人（昨年度4,269人、一昨年度4,833人）となって、昨年度より125人の増加となりました。

以上の結果、拠点全体の財務内容としては、事業活動収入は、昨年度より2%以上増加（約7,900千円）した一方で、人件費は4%以上増加（本年度約9,700千円増、昨年度約13,300千円増）したこと等から、当期資金収支差額は79千円余りのマイナス計上となりました。昨年度の大幅なマイナス計上金額とはならなかったものの、プラス計上に転じることはできませんでした。

また、只狩荘では技能実習生から特定技能に移行して就労していたベトナム人3名の職員が、施設からの支援を受けながら日本の国家資格取得に挑戦しており、令和5年度は介護福祉士、准看護師にそれぞれ1名が合格しました。こうした結果は日本人の職員にも少なからず影響を与えているものと考えます。

そして、令和5年度はインドからの技能実習生3名を新たに雇用しましたが、こうした外国籍の職員と日本人の職員が、ほどよい競争意識の中で、お互いの職員としての質的向上につながってくれることを期待したいと思っています。

ウ) グループホーム大浜拠点については、居室稼働率が98.1（昨年度96.0%、一昨年度97.3%）で年度当初の目標98%を達成することができました。一方、平均介護度は2.5（昨年度2.7）となって昨年度より低下する結果となりました。

また、デイサービス事業の1日平均通所者数は7.4人（昨年度7.8人、一昨年度7.0人）となって、昨年度よりはわずかに少なくなりましたが、ほぼ例年どおりの実



績となりました。

拠点の財務内容としては、事業活動収入が昨年度より4%余り減少するとともに、人件費も減少しましたが、人件費の減少率は2%に留まったこと等により、宅老所を含めた当期資金収支差額合計は、わずかに約700円ですが初めてマイナスになりました。

前の経営母体であったNPO法人大浜から平成24年4月に移譲を受けて以来、経営規模としては小さいながらも着実に資金収支差額を積み上げてきた事業所だっただけに、初めての当期資金収支差額のマイナス計上は、改めて危機感を持って受け止めています。原因としては、人件費率の増加やデイサービス利用者の減少などが考えられ、事業所を取り巻く環境は厳しいものがありますが、今後の運営において赤字決算を継続しないような対応策を検討しなければならないと考えています。

エ) みはらし荘拠点については、デイサービスセンターにおいて、一日平均利用者数が15.4名(昨年度14.1名、一昨年度15.7名)となり、昨年度実績を上回ることができました。近年徐々に利用者数が減少している傾向に一旦歯止めがかかった結果になりましたが、回復傾向に転じたとは言えないと思っています。今年度の結果は、新型コロナウイルスの影響が低下したことにより一時的な回復が見られたのではないかと考えています。そうした結果を受けて事業活動収入は、昨年と比較して8%以上増加しました。

ゆたっとはうすにおいては、年間の入居率は95.8%(昨年度95.8%、一昨年度95.9%)となり、昨年度と変わらない結果となりました。平均介護度は2.9(昨年度3.6)となって昨年度より低下する結果となりました。そうした結果を受けて事業活動収入は7%近く減少しました。

さゆり会ケアマネジメントセンターにおいては、職員体制が昨年度の6人体制から5人体制で臨むことになりました。介護給付プランの作成件数は、施設入所やご逝去される方が多かったことから目標とした月当たり155件以上(実績147件/月)には届きませんでした。ケアプランの作成総件数も昨年度から4.0%減少して2,144件(昨年度2,233件、一昨年度2,344件)と89件の減少となりました。年間の一人当たりの作成件数になおしますと約430件(昨年度約370件、一昨年度約470件)となって昨年度よりは増加する結果となっています。

以上より、みはらし荘拠点全体における財務内容は、昨年と比較して事業活動収入はほぼ同額となりました。しかし、人件費の減少(昨年度比2.4%減)や事業費は増加(昨年度12.0%増)したものの、事務費は大幅に減少(昨年度比29.4%減)したことから、当期資金収支差額合計は、約11,100千円余り(昨年度約5,500千円余り)と大幅な増加となりました。

エ) 松寿園については、これまで新型コロナウイルスの感染者が発生していませんでしたが、7月に入所者28名、職員6名が感染してしまいました。初めての感染者ということもあって初動体制への反省すべき点はありましたが、既に経験のある事業所からの応援や指導を受けて対応した結果、重傷者を出すことなく2週間ほどで終息させることができました。そうした事態はあったものの、年間を通しての施設状況としては、例年より退所者や入院者が少ない1年となったことから運営的には安定したものとなりました。そのため、入所稼働率も97.0%(昨年度95.0%、一昨年度93.5%)と昨年度を上回る結果となりました。

財務内容としても、介護報酬、措置費収入ともに増加したため、事業活動収入は昨年度より約7%ほど増加しました。加えて事業費は昨年度より6%ほど増加したものの、人件費（昨年度比8%余り減）や事務費（昨年度比24%余り減）が減少したことから、積立金を含めた当期資金収支差額合計は、29,000千円余りになりました。これはこれまでにない金額ですが、本来修繕工事に係る借入金収入で支払う予定だった分

（15,000千円）を借入金をしないまま前年度に前倒しで支払っていた分の反動で金額が膨らんだ部分がありますので、純粋に単年度での資金収支差額ではないことは念頭に置いておく必要があります。

令和5年度において、これまで懸案だった屋上防水改修工事、空調機器設備更新工事及びLED機器取り替え工事といった一連の工事が大きな事故もなく無事に終了できたことは、何よりだったと考えています。工事中は利用者の方々に騒音であったり、出入りできる場所や空間の制限があったりして、様々なご不便をおかけしたことと思いますが、工事終了とともにこれまでの日常に戻っていただけることを大変うれしく思っています。

オ) ひだまりの舎拠点については、サービス付高齢者向け住宅において、本年度の退居者が6名（昨年度12名、一昨年度10名）となり、昨年度から半減しましたので、年間の居室稼働率は96.6%（昨年度90.8%、一昨年度92.1%）となり、昨年度、一昨年度より上昇する結果となりました。年末年始にかけて、新型コロナウイルスへの感染者が入居者から初めて発生しましたが、職員への感染はなく、最終的に入居者7人が感染しましたが、感染に対する備えをしていたことから、ある程度スムーズな対応をすることができました。

年間の平均介護度は2.41（昨年度2.66、一昨年度2.57）となり、徐々に進んでいた重度化にブレーキがかかる結果となりました。

グループホームでは、入退居者が1名にとどまったことから、年間の居室稼働率も97.7%（昨年度95.6%、一昨年度95.7%）となり、昨年度、一昨年度を超える稼働率を確保することが出来ました。しかし、年間平均介護度は3.11（昨年度2.65、一昨年度2.47）となり、速いスピードで重度化が進んでいます。特に認知症の症状の進行が著しくて、入居者の半数以上が、食事、排泄、更衣、入浴介助で1日のを終えてしまうような状況となっています。職員の心身への負担も大きくなっていることが予想されるため、職員の心身の状態にもしっかりと注視していく必要があると考えています。

デイサービスセンターでは、年間延べ利用者数が5,241人（昨年度4,960人、一昨年度5,785人）となり、昨年度より281名増加する結果となりました。12月には新型コロナウイルス感染者が確認され、サービス付高齢者向け住宅でも7名の感染者が確認されるまでに拡大したため事業所を1週間完全休業する措置を取ったにもかかわらず昨年以上の通所実績を残すとともに、外部からの重度者受け入れを積極的に取り組んで頂いたことは大いに評価したいところです。

さゆり会ヘルパーステーションでは、月平均利用登録者数が41.8人（昨年度34.9人、一昨年度42.4人）となり、訪問延べ件数は10,781人（昨年度9,439人、一昨年10,432人）となって、どちらも昨年度、一昨年度と減少傾向が続いていましたが、その傾向に一旦歯止めがかかった結果となりました。

訪問件数の増加の中でも、身体介護サービスでの件数が増加したため、事業活動収入は昨年度より20%以上の増収となりました。職員の配置については今年度も苦勞する場

面が見られましたが、今後も適正な人員配置に注力して頂いて、地域からの需要に応えていけるような事業所を目指して一層の努力を期待したいと思います。

さゆり会訪問看護ステーションでは、これまで同様に、新たな看護職員の確保に努めました。新たな職員を迎えることは出来ず、令和5年度も事業所として運営できる最少人員（看護師2.5人以上）で事業を展開してきました。そのため、実利用登録者の月平均も38.5人（昨年度37.7人、一昨年度48.0人）となり、昨年度と同程度の登録者数にとどまりました。

訪問延べ件数についても2,180件（昨年度2,282件、一昨年度2,907件）となって、大きく減少していた昨年度の件数をさらに100件程度下回る結果となりました。そのため事業活動収入も昨年度より約4%減少しました。

結果的に、サービス付高齢者向け住宅を除くひだまりの舎拠点の財務内容としては、事業活動収入が昨年度より約7%増加したため、当期資金収支差額合計は3,400千円余りのプラス（昨年度600千円余りのマイナス）計上となりました。

また、サービス付高齢者向け住宅の財務内容としては、事業活動収入は昨年度より約3%増額となり、当期資金収支差額合計も700千円余りのプラス（昨年度500千円余りのプラス）計上となりました。福祉事業と公益事業を合わせた全体の財務内容で見ると、当期資金収支差額合計は4,200千円余りのプラス（昨年度50千円余りのマイナス）を計上する結果となっています。

カ) ショートステイ女神乃里拠点については、昨年度、ようやく年間を通して定員上限の29床を維持できたところでしたが、令和5年度においても年間を通して定員29床を維持しながら、年間の稼働率86.9%（昨年度82.2%、一昨年度73%）を達成できました。ケアマネジメントセンターにおいても、介護給付実績件数は461件（昨年度360件）となり、昨年度より101件増加して当初の目標も達成しました。予防給付実績件数は64件（昨年度105件）にとどまって減少する結果となっています。2月末から3月にかけて職員の半数以上が新型コロナウイルスに感染するというこれまでにない事態が発生したにもかかわらず、昨年度、一昨年度を上回る成果を実現できたことは大いに評価したいと思います。

一方で、当事業所においては、これまでも退職者が比較的多い状態が続いてきましたが、令和5年度においても退職者が8名（昨年度8名、一昨年度13名）となっています。勿論それに伴って入職者も同等程度確保できていることは喜ばしいところですが、職員の入れ替わり自体が職員同士や利用者に与える影響は決して小さくないと思われるので、今後は退職者を予防する取り組みにより一層注力して頂きたいと思えます。

以上の状況から拠点の財務内容は、昨年度の事業活動収入より5%余り増加しました。そのため昨年度は只狩荘から6,000千円の資金援助があったにもかかわらず、当期資金収支差額合計は1,400千円余りのマイナス計上となっていました。令和5年度においては、他事業所からの資金援助なしで400千円余りのマイナス計上にとどまりました。わずかにマイナス計上とはなりましたが、ほぼ自前の資金で運営ができたことは、当事業所の運営開始から初めてのことであり、今後の自立した運営への道が大いに期待できる成果だったと思えます。

#### ○ 障害者（児）福祉事業について

ア) 居住（共同生活援助）事業所における年間居室稼働率実績は、下表のとおりとなりま

した。令和5年度は、グループホーム6事業所の内、昨年度当初の目標を達成できなかったグループホーム福江、グループホーム大津、ちゃっとはうすの3事業所が、目標としていた居室稼働率を達成し、逆に目標を達成していた3事業所が今度は達成できないという結果になりました。全体の平均居室稼働率は93.8%となりましたので、なんとか目標としていた稼働率は達成できた結果となりました。

年間の居室稼働率については、これまで各事業所でそれぞれに設定していましたが、一昨年度より、事業所運営の財務面から全体の年間稼働率93%以上という目標値を設定したところですので、各事業所での目標設定においても、今後は93%以上の目標値を設定して頂きたいと考えています。

今後も居住事業所の安定した運営のために、日頃からの利用者の体調管理を徹底して、入院になる場合でも短期間で退院できるように早めの対応に努めていきたいと思いを。

ただ、事業所側の対応のみで解決できない状況が多いことも事実であり、結果だけに一喜一憂することも避けなければならないと思っています。

また、下表から分かるとおり、介護サービス包括型と外部サービス型には、入居者の平均年齢での大きな相違が見られず、近年の外部サービス型では病院への通院同行も増えている現状を踏まえて、令和6年度の早い段階で、4カ所の事業所を1カ所の介護サービス包括型事業所として再編する準備を進めているところです。場所的に隔たった建物を1つの事業所として運営する経験は初めてのこととなるため、試行錯誤することが多いと思いますが、職員同士の連携を最大限に取りながら利用者の方々の方が不安にならないような環境作りを徹底していきたいと思いを。

#### 事業所別入居者平均年齢

事業所名	やまゆり荘	グループホーム福江	崎山の家	さざなみ荘	グループホーム大津	ホワイトハウス	ちゃっとはうす	平均年齢
R2年度	57.3	62.4	59.7	57.0	58.5	54.6	52.0	57.4
R3年度	58.6	63.2	61.0	61.0	57.0	56.8	53.0	58.7
R4年度	59.3	60.2	59.0	60.8	60.2	—	59.0	59.8
R5年度	61.1	60.6	61.0	56.3	54.2	—	59.0	58.7

※ 平均年齢は、各事業所の平均年齢を単純に加算して、事業所数で除して求めた数値です。

#### 事業所別年間居室稼働率

事業所名	年間居室稼働率 (%)					備考
	当初目標値 (%)					
	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R元年度	
やまゆり荘	93.0	95.8	93.2	94.1	95.3	介護包括型
	95	90	90	90	90	
グループホーム福江	97.4	95.9	99.5	94.6	87.8	介護包括型
	90	98	98	88	85	
崎山の家	83.2	93.3	80.9	97.2	82.2	外部型サービス利用型
	93	91	91	96	96	
さざなみ荘	90.8	98.0	81.1	92.9	91.9	同上
	95	95	95	94	90	
グループホーム大津	96.0	92.5	90.5	97.0	99.3	同上
	93	96	95	97	95	

ちやっとはうす	96.0 95	94.9 95	96.1 90	98.4 95	98.2 90	同上
平均居室稼働率 (全体)	93.8	95.3	89.0	95.2	92.5	

※ R4年度におけるGH福江の稼働率については、ホワイトハウス4か月分の稼働率も含めた数値となっています。また、R元～3年度までは、全体の平均居室稼働率にホワイトハウス分も含まれた数値となっています。

イ) 生活介護事業所のあじさいはうすにおいては、年間平均通所者の計画目標を21.9名(昨年度19.8名)としていましたが、結果的には20.1名となり、計画目標を達成することはできませんでした。この結果については、定員を超えての利用が常態化しないように改善することという長崎県の指導に沿った結果になったということにもなりますが、一方で現在の職員数では今以上の重度者受け入れが困難になっていることも示唆していると考えています。

事業所の利用状況については、退所者も年間で1名(昨年度4名、一昨年度2名)いましたが、翌月には登録利用者数が年度当初の利用者数に戻るなど年間を通して安定した利用者数で運営することが出来ました。その結果、年間平均利用登録者に対する年間平均通所者の割合(年間平均通所率)は、74.7%(昨年度72.9%)となり、令和2年度から目標としている年間平均通所率70%以上の目標も達成もすることが出来ました。

財務内容としては、事業活動収入が昨年度より3%程度の減少にとどまったものの、事業費の増加等により当期資金収支差額はプラス計上とはなりましたが、昨年と比較すると28%程度の減少となりました。

ウ) 就労継続支援B型事業所における直近5年間の主な年間実績は下表のとおりとなりました。下表の結果から、令和5年度における年間延べ利用者数は、昨年度実績とほぼ同じ数値となりました。しかしこの結果から、数年にわたって継続してきた利用者の減少が下げ止まったと判断するのは未だ早計のように感じています。

昨年度、今年度と利用者減少が一旦止まったことで、昨年ほどではありませんが一定の当期資金収支差額を確保することができました。

しかし、3カ所の事業所ともに、事業活動収入は昨年度と同等程度であるにもかかわらず、人件費や事業費の増加によって当期資金収支差額が全体として20%近く減少したのは気になるところです。

また、各事業所の入所者数と退所者数の5年間の推移を下表で見ると、令和4年度においてだけは、入所者数が退所者数を上回る結果となっていますが、残りの年度ではいずれも退所者が入所者を上回っていますので、年間延利用者数を見ると下げ止まったように思えますが、利用者数そのものは減少傾向が続いているのが分かります

利用者の減少に歯止めをかけるためには、利用者への工賃額の引き上げという課題は避けて通れないと考えますので、現在稼働中の就労事業の内容充実とともに、新たな就労科目として検討中の宿泊事業の早期実現を図る必要があると考えています。

事業所名	年間延利用者数					年間平均利用者数				
	開所日数					R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R1年度
	R5年度	R4年度	R3年度	R2年度	R1年度					
みつたけ荘	4,525 261	4,402 260	4,139 260	4,640 260	5,413 262	17.3	16.9	15.9	17.8	20.6
けいふはうす	5,243 257	5,225 259	5,104 260	4,629 260	5,628 285	20.4	20.2	19.6	17.8	19.7
ブルワーク	3,670 257	3,749 259	3,953 260	4,312 281	4,350 310	14.3	14.5	15.2	15.3	14.0
合計	13,438 775	13,376 778	13,196 780	13,581 801	15,391 857	52.0	51.6	50.7	51.0	54.4
平均	4,479 258	4,459 259	4,399 260	4,527 267	5,130 286	17.3	17.2	16.9	17.0	18.0

事業所名	入所者						退所者						5年間の増減 A-B
	R5	R4	R3	R2	R1	合計 A	R5	R4	R3	R2	R1	合計 B	
みつたけ荘	1	4	2	1	2	10	2	1	2	5	5	15	△ 5
けいふはうす	1	4	4	3	3	15	3	3	2	5	6	19	△ 4
ブルワーク	5	2	2	9	3	21	5	1	8	8	3	25	△ 4
合計	7	10	8	13	8	46	10	5	12	18	14	59	△13

※R4等の表記は「年度」を示しています。

※令和5年度末の各事業所の登録利用者数は、みつたけ荘 18名（昨年度末20名）、けいふはうす 27名（昨年度末28名）、ブルワーク 18名（昨年度末18名）となっています。

エ) サポートセンターゆうなぎにおいては、一般相談支援事業、特定相談支援事業、五島市の委託障害者相談支援事業、障害者支援区分の認定調査業務を最小限の職員3名で実施しているところです。昨年度は年度途中で事業所で中核となっていた職員が体調不良のために急遽退職したことから、相談支援専門員の資格を持たない職員を異動させるしかありませんでしたが、令和5年度においては、3名全員が相談支援専門員有資格者の環境で業務遂行することができたことから、昨年並みの業務実績を残すことができました。しかし、現在の職員数では、現状の実績を維持するのが精一杯という状況が続いています。今後市内の相談事業所が減少する中で、今以上の計画相談実績を求められた場合は、対応できない場合も考えられますので、相談支援専門員有資格者を確保したいところでしたが、令和5年度においては種々の事情から実現できませんでした。新年度においても引き続き相談支援専門員有資格者を確保することに取り組みたいと思います。

また、令和6年度においては、五島市が委託障害者相談事業の委託料を実績に応じて見直したいとの意向を示していますので、契約内容に見合う実績を厳しく求められていることを自覚して今後の業務を遂行しなければならないと考えています。

オ) 地域活動支援センターについては、下表に示すとおり、直近5カ年の実績概要を見ると減少の一途をたどっていた1日当たりの平均利用者数の減少がようやく収まった状況となりました。しかし、10名を優に超えていた頃に比べるとその回復は十分とは言えない状況です。

そうした中、事業所の中核を担っていた職員の突然の退職によって、必要な職員数を確保できない状況となったことから、五島市と協議の上、令和6年1月からは、センターの種別をこれまでのⅠ型からⅢ型に変更するとともに、委託料を減額する変更契約を行いました。そのため6年度においては、当初からⅢ型のセンターという位置づけで業務委託契約を締結したところです。

また、新しい契約では職員数がこれまでの3名から2名に減少することとなっていますが、事業所を現実的に運営していくためには、2名の職員では1名が休んだ場合などに運営が困難になる場合も出てくるのが予想されるため、そうした場合には他の事業所からの協力が得られる体制も取っておく必要があると考えています。

そしてまた、五島市においては、サポートセンターゆうなぎと同様に、地域活動支援センターにおいても、委託料を実績に応じて見直したいとの意向を示していますので、ここでも今後は事業実績を厳しく求められていることを自覚して今後の業務を遂行しなければならないと考えています。

利用登録者数（人）					新規登録者数（人）					1日当たり平均利用者数（人）				
R 5	R 4	R 3	R 2	R 元	R 5	R 4	R 3	R 2	R 元	R 5	R 4	R 3	R 2	R 元
67	59	78	80	84	21	18	29	35	28	5.7	3.9	6.3	7.2	13.2

※ R 5等の表記は「年度」を示しています。

カ) 障害者就業・生活支援センターについては、当初の目標を年間就職者8名、年間職場実習あっせん10名に設定していましたが、結果的には年間就職者12名（昨年度11名、一昨年度17名）、年間職場実習あっせん14名（昨年度12名、一昨年度10名）となり、いずれも目標を達成するとともに昨年度実績を上回る結果となりました。

年間就職者については、一昨年度の17名には届きませんでした。年間就職者の委託条件は5名以上となっていることを考えると十分な実績が達成できたと考えています。

また、年間の職場実習あっせん数は、これまで委託条件の10名以上を達成するのが精一杯という状況が続いてきましたが、昨年度、今年度と徐々に実績が向上しつつあると考えています。

支援対象障害者数及び相談支援件数については、各々141名（昨年度123名、一昨年度114名）及び1,694件（昨年度1,649件、一昨年度1,267件）の実績となり、支援対象者数及び相談支援件数ともに増加傾向にあります。これについては、2名の職員が安定して業務に取り組めたことやセンターの認知度が上がっていることが影響しているものと考えています。

しかし、センターの財務面では、令和6年度から生活支援等事業の委託料が60万円程度増額されたものの、現状のままでは事業収支はマイナス計上が継続していくと予想されます。そうした状況を早い段階で解消するためには、人件費の削減や事務所経費の削減等についての対策が必要であると考えています。

### (3) 役員等定数及び現員

理事10名（現員10名） 監事2名（現員2名） 評議員11名（現員11名）

2. 理事会の開催状況

開催年月日 開催場所	出席 者数	議 題
5年 6月 8日 本部事務所 (13:30 ~15:40)	10 (2)	<b>【決議事項】</b> (1) 令和4年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第3次補正収支予算案承認の件 (2) 令和4年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第3次補正収支予算案承認の件 (3) 令和4年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第3次補正収支予算案承認の件 (4) 令和4年度社会福祉法人さゆり会事業報告書承認の件 (5) 令和4年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計決算書承認の件 (6) 令和4年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計決算書承認の件 (7) 令和4年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計決算書承認及び監査報告の件 (8) 令和5年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第1次補正収支予算案承認の件 (9) 高齢者福祉事業所就業規則一部改正案承認の件 (10) 障害者(児)福祉事業所就業規則一部改正案承認の件 (11) こども園等給与規程一部改正案承認の件 (12) 高齢者福祉事業所給与規程一部改正案承認の件 (13) 障害者(児)福祉事業所給与規程一部改正案承認の件 (14) デイサービスセンター大浜運営規程一部改正案承認の件 (15) 夏季賞与について (16) 役員を選任候補者の選考について (17) 評議員候補者の選考について (18) 定時評議員会の開催について
5年 6月 23日 本部事務所 (15:30 ~15:50)	10 (2)	<b>【決議事項】</b> (1) 社会福祉法人さゆり会理事長選定の件 (2) 評議員会・理事会の招集権者(理事長以外)について
5年 11月 16日 本部事務所 (13:30 ~15:20)	10 (2)	<b>【決議事項】</b> (1) 崎山保育園跡地利用について (2) 松寿園空調機器設備等更新工事資金計画案承認の件 (3) ひまわりルーム増築計画案について (4) 経理規程一部改正案承認の件 (5) 評議員候補者の選考について <b>【報告事項】</b> ・理事長の職務執行状況報告について



<p>5年12月13日 本部事務所 (13:30 ～14:30)</p>	<p>10 (2)</p>	<p><b>【決議事項】</b></p> <p>(1) 令和5年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第2次補正収支予算案承認の件</p> <p>(2) 令和5年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第2次補正収支予算案承認の件</p> <p>(3) 令和5年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第2次補正収支予算案承認の件</p> <p>(4) 崎山の家、ちゃっとはうす、グループホーム大津運営規程一部改正案承認の件</p> <p>(5) さざなみ荘運営規程一部改正案承認の件</p> <p>(6) 冬季賞与について</p> <p>(7) 評議員会の開催について</p> <p><b>【報告事項】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童発達支援センターへの移行について</li> <li>・ 崎山保育園跡地利用について</li> <li>・ 地域活動支援センターの現状について</li> </ul>
<p>6年 2月19日 本部事務所 (14:00 ～15:00)</p>	<p>9 (2)</p>	<p><b>【決議事項】</b></p> <p>(1) ひまわりルーム増築工事に係る入札参加業者選定の件</p> <p>(2) こども園等就業規則一部改正案承認の件</p> <p>(3) こども園等給与規程及び非常勤職員給与規程一部改正案承認の件</p> <p>(4) こもれびの舎児童クラブ運営規程一部改正案承認の件</p>
<p>6年 3月15日 本部事務所 (13:30 ～16:00)</p>	<p>8 (2)</p>	<p><b>【決議事項】</b></p> <p>(1) 令和5年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第3次補正収支予算案承認の件</p> <p>(2) 令和5年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第3次補正収支予算案承認の件</p> <p>(3) 令和5年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第3次補正収支予算案承認の件</p> <p>(4) 法人運営費に対する施設等負担金について</p> <p>(5) 令和6年度社会福祉法人さゆり会事業計画案承認の件</p> <p>(6) 令和6年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計当初予算案承認の件</p> <p>(7) 令和6年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計当初予算案承認の件</p> <p>(8) 令和6年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計当初予算案承認の件</p> <p>(9) 評議員会の開催について</p> <p>(10) 社会福祉法人さゆり会奨学金貸与規程一部改正案承認の件</p> <p>(11) 高齢者福祉施設就業規則一部改正案承認の件</p> <p>(12) 高齢者福祉施設給与規程一部改正案承認の件</p>

		(13) 高齢者福祉施設非常勤職員給与規程一部改正案承認の件 (14) 障害者（児）福祉事業所就業規則一部改正案承認の件 (15) 障害者（児）福祉事業所給与規程一部改正案承認の件 (16) やまゆり荘運営規程一部改正案承認の件 (17) グループホーム福江運営規程一部改正案承認の件 (18) あじさいはうす運営規程一部改正案承認の件 (19) みつたけ荘運営規程一部改正案承認の件 (20) けいふはうす運営規程一部改正案承認の件 (21) ブルワーク運営規程一部改正案承認の件 (22) ひまわりルーム運営規程一部改正案承認の件 <b>【報告事項】</b> ・ 理事長の職務執行状況の報告について
--	--	--

※出席者数欄の（ ）内の数字は、監事の出席人数を示す。

### 3. 評議員会の開催状況

開催年月日 開催場所	出席者数	議 題
5年 6月23日 本部事務所 (13:30 ～15:10)	9 (2)	<b>【決議事項】</b> (1) 令和4年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第3次補正収支予算案承認の件 (2) 令和4年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第3次補正収支予算案承認の件 (3) 令和4年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第3次補正収支予算案承認の件 (4) 令和4年度社会福祉法人さゆり会事業報告書承認の件 (5) 令和4年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計決算書承認の件 (6) 令和4年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計決算書承認の件 (7) 令和4年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計決算書承認及び監査報告の件 (8) 令和5年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第1次補正収支予算案承認の件 (9) 役員選任の件
5年12月21日 本部事務所 (13:30 ～14:00)	9 (2)	<b>【決議事項】</b> (1) 令和5年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第2次補正収支予算案承認の件 (2) 令和5年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第2次補正収支予算案承認の件 (3) 令和5年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第2次補正収

		<p>支予算案承認の件</p> <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童発達支援センターへの移行について</li> <li>・崎山保育園跡地利用について</li> <li>・地域活動支援センターの現状について</li> </ul>
<p>6年 3月25日</p> <p>本部事務所</p> <p>(13:30 ~14:30)</p>	<p>10</p> <p>(2)</p>	<p>【決議事項】</p> <p>(1) 令和5年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計第3次補正収支予算案承認の件</p> <p>(2) 令和5年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計第3次補正収支予算案承認の件</p> <p>(3) 令和5年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計第3次補正収支予算案承認の件</p> <p>(4) 令和6年度社会福祉法人さゆり会事業計画案承認の件</p> <p>(5) 令和6年度社会福祉法人さゆり会社会福祉事業会計当初予算案承認の件</p> <p>(6) 令和6年度社会福祉法人さゆり会公益事業会計当初予算案承認の件</p> <p>(7) 令和6年度社会福祉法人さゆり会収益事業会計当初予算案承認の件</p>

※出席者数欄の（ ）内の数字は、監事の出席人数を示す。

#### 4. 監事監査の実施状況

実施年月日 実施場所	監査担当者	監 査 結 果
<p>5年 5月29日</p> <p>本部事務所</p> <p>(13:30 ~16:00)</p>	<p>熊川良範</p> <p>荒木一郎</p>	<p>① 事業報告等の監査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業報告等は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認める。</li> <li>・理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められない。</li> </ul>
<p>5年 5月30日</p> <p>本部事務所</p> <p>( 9:30 ~14:00)</p>	<p>熊川良範</p> <p>荒木一郎</p>	<p>② 計算関係書類及び財産目録の監査結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計算関係書類及び財産目録については、法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に示しているものと認める。</li> </ul>

#### 5. 役員等の研修参加状況

令和5年度における役員等の研修実績は下表のとおりです。ありませんでした。

年 月 日	研 修 会 名	参加者	出席者氏名
<p>令和5年9月7日</p> <p>場所：長崎県総合福</p>	<p>長崎県社会福祉法人経営者協議会セミナー（前期）</p> <p>①講義「どこもかしこも人がいなくなる！</p>	150名	林田輝久

<p>社センター5階 大会議室</p>	<p><b>どうする社福」</b> 講師：全国社会福祉法人経営者協議会制度・政策委員会委員及び経営青年会副会長 園田 裕紹 氏</p> <p>②説明「新体制発足！これからの全国青年会が目指すこと」 説明者：長崎県社会福祉法人青年経営者会</p> <p>③説明「物価高騰・報酬改定を乗り越え、持続可能な経営を支えるために ～全国経営協会の取り組み」 説明者：全国社会福祉法人青年経営者会事務局</p>		
<p>令和6年3月18日 場所：長崎県総合福祉センター5階大会議室</p>	<p>令和5年度長崎県社会福祉法人経営者協議会第2回総会及び研修</p> <p>&lt;総会&gt; (1) 令和5年度長崎県経営協事業進捗状況、補正予算書(案)について (2) 令和6年度長崎県経営協事業計画(案)、当初予算(案)について (3) その他報告事項</p> <p>&lt;研修&gt; 講演「生き残りをかけたこれからの社会福祉法人経営」 講師：全国社会福祉法人経営青年会 副会長 園田 裕紹 氏</p>	<p>100名</p>	<p>林田輝久</p>

6. 大規模施設等整備（500万円以上）工事の実績

(1) 令和5年度中に終了した大規模施設等整備工事の結果は次のとおりです。

金額単位：円

工事等名称・期間	工事等内容	工事業者等名称	金額	資金内訳
<p>養護老人ホーム松寿園防水改修工事 (令和4年11月1日～令和5年4月19日)</p>	<p>屋上防水改修工事</p>	<p>(株) カミングホーム</p>	<p>29,700,000</p>	<p>銀行借入金 29,000,000 (借入期間15年、 年利1.200%) 自己資金 700,000</p>
<p>合計</p>			<p>29,700,000</p>	
<p>養護老人ホーム松寿園空調機器設備更新工事及びLED機器設置工事</p>	<p>空調機器設備更新工事 LED機器設置工事</p>	<p>リコージャパン(株) 長崎支社</p>	<p>54,890,000 5,995,000</p>	<p>銀行借入金 51,000,000 (借入期間15年、 年利1.200%)</p>

(令和5年10月1日 ～ 令和5年12月27日)	補助金申請コンサル業務  LED機器納入 ( )	(株) ナイスコーポレーション  (株) チューオー	2,398,000  (10,340,000 はリースで対応)	省エネ投資促進支援 事業費補助金 10,983,000 自己資金1,300,000
合 計			63,283,000	